

製品名: PARK7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15757**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	PARK7
別名	PARK7; Protein DJ-1; Oncogene DJ1; Parkinson disease protein 7
遺伝子 ID	11315.0
SwissProt ID	Q99497
免疫原	抗血清はヒト DJ-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

背景

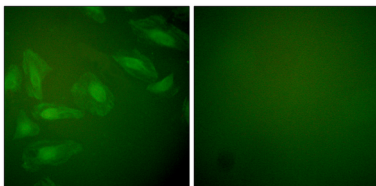
この遺伝子産物は、ペプチダーゼ C56 ファミリーのタンパク質に属します。アンドロゲン受容体依存性転写の正の調節因子として機能します。また、酸化還元感受性シャペロン、酸化ストレスセンサーとして機能する可能性があり、ニューロンを酸化ストレスおよ

び細胞死から保護すると考えられています。この遺伝子の欠陥は、常染色体劣性遺伝性の早発性パーキンソン病 7 の原因です。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: PARK7 の欠陥は、常染色体劣性遺伝性の早発性パーキンソン病 7 (PARK7) の原因です[MIM:606324, 168600]。パーキンソン病 (PD) は、複雑な多因子疾患であり、典型的には 50 歳以降に発症しますが、早発例 (50 歳未満) も知られています。パーキンソン病 (PD) は一般的に散発性疾患として発症しますが、稀にメンデル遺伝形質として遺伝することもあります。散発性 PD と家族性 PD は非常に類似していますが、遺伝性 PD は通常、より若い年齢で発症し、非典型的な臨床症状を伴います。PD は、動作緩慢、安静時振戦、筋強剛、姿勢不安定性、そしてレボドパ治療に対する臨床的に顕著な反応を特徴とします。病理学的には、黒質におけるドパミン作動性ニューロンの消失と、脳の様々な領域における残存ニューロンにおけるレビー小体 (凝集タンパク質のニューロン内蓄積) の存在が関与しています。PARK7 遺伝子の欠陥は、40 歳未満での発症、緩やかな進行、そしてレボドパに対する初期の良好な反応を特徴とする。疾患: PARK7 遺伝子の欠陥は、筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン症候群/認知症複合体 2 型 (MIM:105500) の感受性に影響を与える。この疾患は、グアム病とも呼ばれる。筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン症候群/認知症複合体 2 型は、グアム島西太平洋諸島のチャモロ人の間で非常に高い発症率を示す神経変性疾患である。筋萎縮性側索硬化症とパーキンソン症候群/認知症はどちらも、この集団において慢性進行性で、一様に致命的な疾患である。両疾患は、同じ家系、同じきょうだい、さらには同一個人に発生することが知られています。機能:アンドロゲン受容体依存性転写の正の調節因子として機能します。酸化還元感受性シャペロンおよび酸化ストレスのセンサーとして機能する可能性があります。SNCA の凝集を防ぎます。ニューロンを酸化ストレスと細胞死から保護します。受精に役割を果たします。タンパク質分解活性はありません。細胞増殖促進活性と形質転換活性があります。誘導:紫外線照射によって、その他:Cys-106 は容易に酸化されてスルフィン酸になります。オンライン情報:シンガポールヒト変異および多型データベース,PTM:PIAS2 または PIAS4 によって Lys-130 が SUMO 化されます。紫外線照射後に増強され、細胞増殖促進活性および形質転換活性に必須である。類似性: ペプチダーゼ C56 ファミリーに属する。細胞内局在: 一部の細胞、特に酸化ストレス後にミトコンドリアに結合。神経変性疾患患者の脳のタウ封入体で検出される。サブユニット: ホモ二量体。EFCAB6/DJBP および PIAS2 に結合する。PARK7、EFCAB6/DJBP および AR を含む三元複合体の一部である。組織特異性: 膵臓、腎臓、骨格筋、肝臓、精巣、心臓で高発現。胎盤および脳でもわずかに低レベルで検出される。アストロサイト、セルトリ細胞、精原細胞、精子細胞、精子で検出される。、

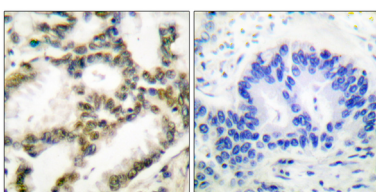
研究分野

パーキンソン病;

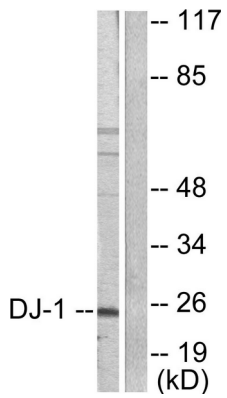
画像データ



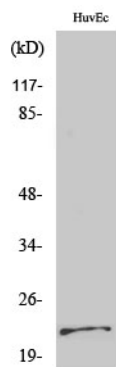
DJ-1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



DJ-1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



DJ-1 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PARK7 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析